

漁業者ら「濁り、良い影響ない」

由比港漁協（静岡市清水区由比今宿）が1日発表した富士川流域の水質調査の結果に対し、河川の環境変化に影響を与える周辺の陸地の土質など総合的な調査の必要性を挙げる声が漁業者ら現場からも上がった。

富士川流域の水質分析

駿河湾の漁業者の間では、富士川の濁りは陸地の栄養素を多く含み、サクラエビやその他の魚類の成長に不可

欠とこれまでは考えられてきた。しかし、県桜えび漁業組合の幹部の1人は調査結果を受け「今回の濁りは土の濁りで質が違ふ。駿河湾の生態系に良い影

響を与えていないというのが漁業者の共通認識だ」と語った。漁協が県の協力を得て、濁りの原因究明に向けて調査を継続することについて、「富士川周辺の山や陸地の土質調査、川の水量減少など総合的な調査が必要では」と指摘した。「しずまえ」としてサクラエビを含めた駿

河湾の漁業や魚介類をPRする市水産漁港課の小川雅弘課長は「今後、市が富士川流域の調査を行うかは未定」とした上で、「県からの要請があれば、協力できる部分は積極的に協力したい」と前向きな姿勢を示した。県水産業局の中平英典局長は「濁りについては調査を継続する。濁りが海の生物に影響を与えているなら是正しないといけない。よく見極めたい」と述べた。

陸地含め 総合的調査を



調査地点の堆積物を示す由比港漁協の宮原淳一組合長。総合的調査も必要だ＝1日午前、静岡市清水区

解説 駿河湾のサクラエビが深刻な不漁に陥っている原因は複合的だ。指摘されるのは①漁

生活環境から考える機会

師による取り過ぎ②海水温の上昇など地球規模の環境問題③人為的な河川の濁りなど身近な環境問題だ。全てに改善策を見いだすことができないが、手の届く限りの努力次第で解決可能な①と③には特に注意を払いたい。

今回由比港漁協が行った成分調査に対し、冷やかな視線を送る人もいる。「サクラエビを取り過ぎた自分たちの責任を棚に上げ

て」という批判だ。しかし、これは誤りだ。サクラエビの生態があまり分かっていない中、不完全な調査であっても原因究明に向けた努力はむしろ評価すべきと考える。そもそも漁師たちは昨年の秋漁を全面休止し、①に対する最低限の義務は果たしている。今後注目すべきなのは、漁師たちが肌感覚で指摘した「異変」を、だれがどのように追究

していくかだ。漁業者はその主体を県などの行政機関に求めている。ただ、それで足りるのか。海で起きていることを、県民皆が想像力を働かせ、自分たちが生活する陸上環境から考えてみる視点こそ必要だ。たった15カ月程度しか生きない、体長数センチの小さな生物の「声なき声」に今後とも耳を傾け続けたい。（サクラエビ異変取材班）